

弘前大学

國史研究

第150記念号

広須新田の歴史的変遷(上)	佐藤 文孝	1
弘前藩領における勸化について	篠村 正雄	23
城下町八戸における町人負担―町役と諸繫諸掛	三浦 忠司	42
〔書評〕 新しい歴史認識をめざして ―盧泰敦著『古代朝鮮 三国統一戦争史』を読む―	黒田 洋子	58
『弘前大学 國史研究』第一〇一号〜第一五〇記念号 総目録(附・著者別索引)		(1)

弘前大学國史研究会

本会機関誌『弘前大学國史研究』への投稿について
投稿規定

◎論 文 四百字詰 60枚程度を原則とする（縦書き、以下同様）

◎研究ノート 四百字詰 20枚から30枚程度

◎研究余録 四百字詰 10枚程度

◎史料紹介 四百字詰 10枚から30枚程度

◎その他（書評・研究動向・歴史随想など）四百字詰 10枚程度
◎ワープロでの執筆に際しては、一段に付き32字×23行で組んで下さい。字数は右の規定の範囲で計算して、それを超えないようにして下さい。

◎デジタルデータによる投稿も可能です（事前に編集委員会へ御相談下さい）。行数・字数は、ワープロ執筆と同様に組んで下さい。なお、プリントアウトした原稿を添付のこと。

◎横書きを希望する時は、あらかじめ本会へご相談下さい。

◎原稿締切 一月末日と八月末日の年2回

メールアドレス hirodaiokushi@gmail.com

※投稿に際しては、図表を最小限におさえ、完成原稿でお願いします。また、原稿は必ず御手元でコピーをとって保存しておいて下さい。投稿は本会会員に限ります。

※掲載については、原稿を受領後、編集委員会で審査し、一ヶ月以内に御通知します。なお、文中に掲載許可を必要とする写真・図版等を含む場合には、掲載決定後、著者の責任において権利者から許可の承諾書を取得して下さい。

※掲載分の論文等については、抜刷50部をさしあげます。

※本誌掲載の論文等を転載する場合は、本会の諒承を得て下さい。

―彙報―

◎令和二年度は未だに続くコロナ禍によって弘前大学国史研究会例会と大会は中止となり、総会は資料を郵送しての議案審議となった。来年度の開催方法については他の学会を参考にしながら、また会員の方々の考えを伺いながら検討することになる。

◎弘前大学教育学部日本史研究室に事務局が移り、新事務局による最初の仕事が本号の刊行であった。一九五六（昭和三十一）年十一月の創刊号から数えて本号で一五〇号となり、一〇〇号同様、一〇一号からの総目録を掲載した。

（HT）

令和三年三月三十日

弘前大学 國史研究 第一五〇記念号

036-8560 弘前市文京町一番地

弘前大学教育学部日本史研究室内

編集者 発行者 弘前大学 國史研究会

振替口座 〇二三〇〇一―六三四番